



2023年11月29日(水)  
国立大学法人岡山大学  
11月定例記者会見

# 岡山大学の宇宙戦略について(概要)

国立大学法人岡山大学  
学長  
那須 保友

副理事(研究・産学共創総括担当)・副学長(学事担当)・URA  
佐藤 法仁

# 1. 岡山大学ビジョン3.0、岡山大学長期ビジョン2050と宇宙

岡山大学の理念「高度な知の創成と的確な知の継承」  
岡山大学の目的「人類社会の持続的進化のための新たなパラダイム構築」

長期ビジョン2050（～2050）：地域と地球の未来を共創し、世界の革新に寄与する研究大学  
岡山大学ビジョン3.0(2022～2027)：ありたい未来を共に育み、共に創る研究大学

SDGs大学経営：SDGsへの貢献を大学経営の中核に置き、教育研究・産学共創を一体的に改革して新たな事業モデルを展開

グローバル・エンゲージメント戦略  
国際機関等多様なステークホルダーと協働し、グローバル・エンゲージメントの強化

岡山大学DX推進プラン：デジタルトランスフォーメーション（DX）for SDGs

**教育**  
「主体的に変容し続ける先駆者」の育成

- ・大学院教育改革
- ・学士課程と高大接続の一体改革（Target2025）
- ・リカレント教育の充実

**研究・産学共創**  
研究成果の社会実装を促進し社会課題解決

- ・若手研究者が自由な発想で挑戦的研究に取り組める環境の整備
- ・学内におけるイノベーション創出機能の集約化と強化

**大学経営**  
変化に強い強靱な組織へ

- ・ERMによるガバナンス体制の強化
- ・ダイバーシティ&インクルージョンの推進
- ・インナーブランディングの強化
- ・大学病院経営の健全化、財源の多様化、自律的な法人経営

アカデミア発の知見と共創の場を求めて、企業や自治体、NPO等から多様な人材が集まり、ともに世界的地球環境課題（食料・エネルギー危機・地域医療等）に向き合う、卓越した研究力とイノベーション力を兼ね備えた地域の中核大学として、「知識によって社会を変革するナレッジワーカー（知識労働者）」を育成・輩出し、研究・イノベーションの叡智で地球と生態系の健康（*Planetary Health*）、Well-being・人の健康（*Human Health*）及び安心・安全に暮らせる地域の健康（*Community Health*）の実現と、そのための社会変革を実現する。

# 1. 岡山大学ビジョン3.0、岡山大学長期ビジョン2050と宇宙

地球と生態系の健康 (*Planetary Health*)

Well-being・人の健康 (*Human Health*)

安心・安全に暮らせる地域の健康 (*Community Health*)



人類が活動・生活していく範囲が拡大する中で、「宇宙」という場が含まれてくる

宇宙からみでの地球と生態系の健康 (*Planetary Health*)

衛星技術など

宇宙からみでのWell-being・人の健康 (*Human Health*)

宇宙からみでの安心・安全に暮らせる地域の健康 (*Community Health*)

宇宙空間・月面での  
持続可能な活動など

技術・産業  
・人材

# 2. わが国の宇宙基本計画

## 宇宙基本計画の概要

令和5年6月13日  
閣議決定

- 人類の活動領域が本格的に宇宙空間に拡大するとともに、宇宙システムが地上システムと一体となって、地球上の様々な課題の解決に貢献し、より豊かな経済・社会活動を実現。また、安全保障環境が複雑で厳しいものになる中、宇宙空間の利用が加速。
- こうした宇宙空間というフロンティアにおける活動を通じてもたらされる経済・社会の変革（スペース・トランスフォーメーション）が世界的なうねりとなっている中、我が国の宇宙活動の自立性を維持・強化し、世界をリードして、段階的に民間商業活動を発展させる必要がある。この実現のため、宇宙基本計画を改定。
- 関係省庁間・官民の連携を図りつつ、予算を含む資源を十分に確保し、これを効果的かつ効率的に活用して、政府を挙げて宇宙政策を強化。

### 目標と将来像

- |  |   |  |   |
|--|---|--|---|
| <p><b>(1) 宇宙安全保障の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宇宙からの安全保障：情報収集衛星や衛星コンステレーションによる情報収集等</li> <li>• 宇宙における安全保障：宇宙領域把握（SDA）体制の構築等</li> <li>• 宇宙安全保障と宇宙産業の発展の好循環</li> </ul> | <p><b>(2) 国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 通信：陸海空と宇宙がシームレスに繋がる</li> <li>• リモートセンシング：発災後、早期の被災状況確認による迅速な災害対応等を実現等</li> <li>• 衛星測位：準天頂衛星のm級測位による自動化・無人化で労働力不足解決に貢献</li> </ul> | <p><b>(3) 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 生命の可能性等の人類共通の知を創出し、月以遠の深宇宙に人類の活動領域を拡大</li> <li>• 月面探査・地球低軌道活動における産業振興を通じて、段階的に民間商業活動を発展</li> <li>• 次世代人材育成と国際プレゼンス向上</li> </ul> | <p><b>(4) 宇宙活動を支える総合的基盤の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 他国に依存することなく宇宙へのアクセスを確保し、自立的な宇宙活動を実現</li> <li>• 衛星運用状況等の情報共有が進展し、スペースデブリの数が一定程度まで管理される</li> <li>• 技術・産業・人材基盤の確立</li> </ul> |
|--|---|--|---|
- 宇宙産業を日本経済における成長産業とするため、その市場規模を、2020年に4.0兆円から2030年代早期に2倍の8.0兆円に。

### 基本的なスタンス

- |  |   |   |
|--|---|---|
| <p><b>(1) 安全保障や宇宙科学・探査等のミッションへの実装や商業化を見据えた政策</b></p> <p><b>(2) 宇宙技術戦略に基づく技術開発の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 安保・民生分野構造的に検討、サプライチェーンも強化</li> </ul> | <p><b>(3) 同盟国・同志国との国際連携の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 国際的規範・ルール作り、我が国強み活かした協力等</li> <li>✓ 国際競争力を持つ企業の戦略的育成・支援</li> <li>✓ 国際市場で勝ち残る意志と技術等がある企業を重点支援</li> </ul> | <p><b>(5) 宇宙開発の中核機関たるJAXAの役割・機能の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ JAXAの戦略的かつ弾力的な資金供給機能を強化、産学官の結節点に</li> </ul> <p><b>(6) 人材・資金等の資源の効果的・効率的な活用</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>✓ 工程表・宇宙技術戦略で資源を効果的・効率的に活用</li> </ul> |
|--|---|---|

### 具体的なアプローチ

- |   |  |   |  |
|---|--|---|--|
| <p><b>(1) 宇宙安全保障の確保</b></p> <p><b>(a) 宇宙安全保障のための宇宙システム利用の抜本的拡大</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 衛星コンステレーションの構築や情報収集衛星の機能強化、民間衛星、同盟国・同志国との連携強化等で隙のない情報収集体制を構築</li> <li>• 情報収集衛星の機能強化(10機体制が目指す能力早期達成)</li> <li>• 安全保障用通信衛星の多層化(耐障害性・耐妨害性のある防衛用通信衛星の確保等)</li> <li>• 衛星コンステに必要な共通技術の確立</li> <li>• 衛星測位機能の強化</li> <li>• ミサイル防衛用宇宙システムに必要な技術の確立（HGVの対処能力の向上のための技術実証等）</li> <li>• 海洋状況把握等</li> </ul> <p><b>(b) 宇宙空間の安全かつ安定的な利用の確保</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宇宙システム全体の機能保証強化</li> <li>• 宇宙領域把握（SDA）体制の構築</li> <li>• 軌道上サービスを活用した衛星のライフサイクル管理</li> </ul> <p><b>(c) 安全保障と宇宙産業の発展の好循環の実現</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 政府の研究開発・実装能力の向上</li> </ul> | <p><b>(2) 国土強靱化・地球規模課題への対応とイノベーションの実現</b></p> <p><b>(a) 次世代通信サービス</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Beyond5G等次世代通信技術開発・実証</li> <li>• フルデジタル化通信衛星実装へ開発・実証(2025年度ETS-9打上げ)</li> <li>• 衛星量子暗号通信の早期実装へ開発・実証</li> </ul> <p><b>(b) リモートセンシング</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 防災・減災、国土強靱化・地球規模課題への衛星開発・運用とデータ活用促進(2029年度ひまわり10号運用開始、2024年度GOSAT-GW打上げ、ALOS-3喪失に対して再開発の要否を含め検討、降水レーダ衛星開発等)</li> <li>• 衛星関連先端技術の開発・実証支援(2025年SAR衛星コンステ構築へ実証等)</li> </ul> <p><b>(c) 準天頂衛星システム</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 7機体制の着実な構築と11機体制に向けた検討・開発着手（準天頂衛星システムの開発・整備・運用、利活用推進）</li> </ul> <p><b>(d) 衛星開発・利用基盤の拡充</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 衛星データ利用拡大とサービス調達推進</li> <li>• 衛星開発・実証プラットフォームにおけるプロジェクトの戦略的推進</li> <li>• 宇宙機器・ソリューション海外展開強化</li> <li>• 異業種や中小・スタートアップ企業の参入促進</li> <li>• 衛星データ及び地理空間データプラットフォームの充実・強化</li> <li>• 宇宙天気予報の高度化・利用拡大（ひまわり10号への宇宙環境計測センサ搭載）</li> <li>• 宇宙太陽光発電の研究開発</li> </ul> | <p><b>(3) 宇宙科学・探査における新たな知と産業の創造</b></p> <p><b>(a) 宇宙科学・探査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 大型の海外計画参画と独創的・先鋭的技術によるユニークなミッションの創出(2024年度MMX打上げ)</li> <li>• 火星本星・小天体探査計画の検討と「月面における科学」の具体化</li> <li>• 獲得すべき重要技術の特定と強みである技術の高度化、強みとなる最先端技術の開発・蓄積、フロントローディングの推進</li> </ul> <p><b>(b) 月面における持続的な有人活動</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• アルテミス計画の下、2020年代後半の日本人の月面着陸、持続的な月面活動の推進(環境制御・生命維持技術、補給機、有人と圧ローバ、測位通信技術、月輸送技術等)</li> <li>• 月面開発工程の具体化に向けた構想策定と官民プラットフォームの構築</li> <li>• 将来市場形成に向けた規範・ルールの形成</li> </ul> <p><b>(c) 地球低軌道活動</b></p> <p>【ISS延長期間】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ISSの利用促進、ニース拡大策の推進</li> <li>• アルテミス計画等に必要技術の実証</li> </ul> <p>【ポストISSを見据えた取組】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• ポストISSの在り方の検討と、その在り方に応じた必要な技術の研究開発</li> <li>• 国際的・国内的な法的枠組みの検討</li> </ul> | <p><b>(4) 宇宙活動を支える総合的基盤の強化</b></p> <p><b>(a) 宇宙輸送</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 基幹ロケットの継続的な運用と打上げの高頻度化などによる強化</li> <li>• 民間ロケットの開発・事業支援</li> <li>• 新たな宇宙輸送システムの構築</li> <li>• 宇宙輸送に関わる制度環境の整備</li> </ul> <p><b>(b) 宇宙交通管理及びスペースデブリ対策</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 商業デブリ除去技術の実証</li> <li>• 軌道上サービス技術の開発・支援</li> <li>• 国際的な規範・ルール形成への参画</li> </ul> <p><b>(c) 技術・産業・人材基盤の強化</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 宇宙技術戦略の策定・ローリング</li> <li>• 先端・基盤技術開発の強化（JAXA能力強化、資金供給機能強化）</li> <li>• 商業化に向けた支援の強化（定期的宇宙実証、放射線試験機会提供、開発プロセスのDX支援等）</li> <li>• 異業種や中小・スタートアップ企業の宇宙産業への参入促進及び事業化支援（JAXA出資・資金供給機能、SBIR制度等）</li> <li>• 契約制度の見直し(官民の開発リスク分担の必要を見直し、進捗に応じた支払手法の検討、物価・為替変動対応、民間の適正利益確保の施策等)</li> <li>• JAXAの人的資源の拡充・強化</li> <li>• 人材基盤の強化</li> <li>• 国際宇宙協力の強化</li> <li>• 国際的な規範・ルール作りの推進</li> <li>• 国民理解の増進</li> </ul> |
|---|--|---|--|

Planetary Health  
Human Health  
Community Health

と共感・共通する部分が多い

宇宙基本計画(令和5年6月13日閣議決定)  
(内閣府宇宙開発戦略推進事務局)



[https://www8.cao.go.jp/space/plan/plan2/kaitai\\_fy05/honbun\\_fy05\\_gaiyou.pdf](https://www8.cao.go.jp/space/plan/plan2/kaitai_fy05/honbun_fy05_gaiyou.pdf)

### 3. 岡山大学の宇宙における主な取組例①

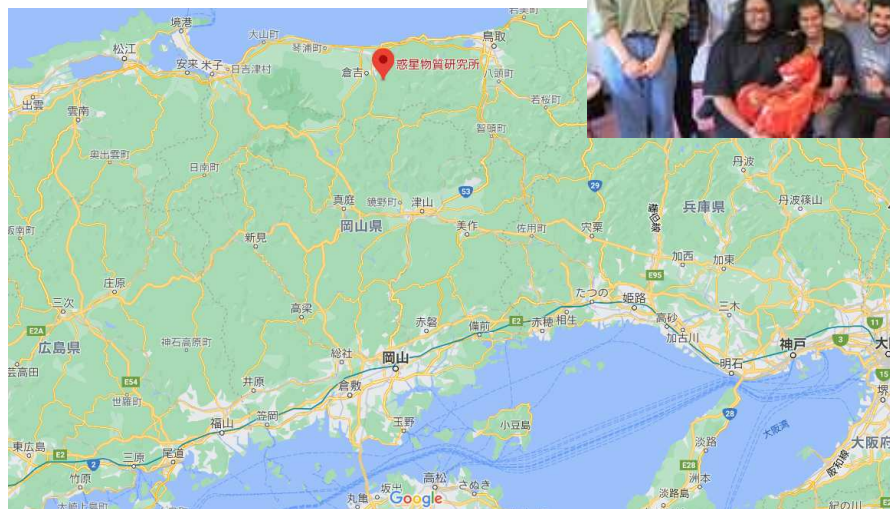
#### 岡山大学高等先鋭研究院 惑星物質研究所 (鳥取県三朝町)

地球を含む惑星の形成・進化や生命の起源を、分析化学及び実験科学アプローチを通じて最先端研究を推進すると同時に、**共同利用・共同研究拠点「惑星物質科学研究拠点(令和4年度～)」**として認定されており、本研究所の先進的実験・分析研究基盤を、幅広く国内外の研究者に提供し、積極的に共同研究教育を展開することをミッションとしている。国立研究開発法人宇宙航空研究開発機構(JAXA)宇宙科学研究所とも連携協定を締結している。



岡山大学高等先鋭研究院

OKAYAMA UNIVERSITY



惑星物質研究所の位置 (google マップより)

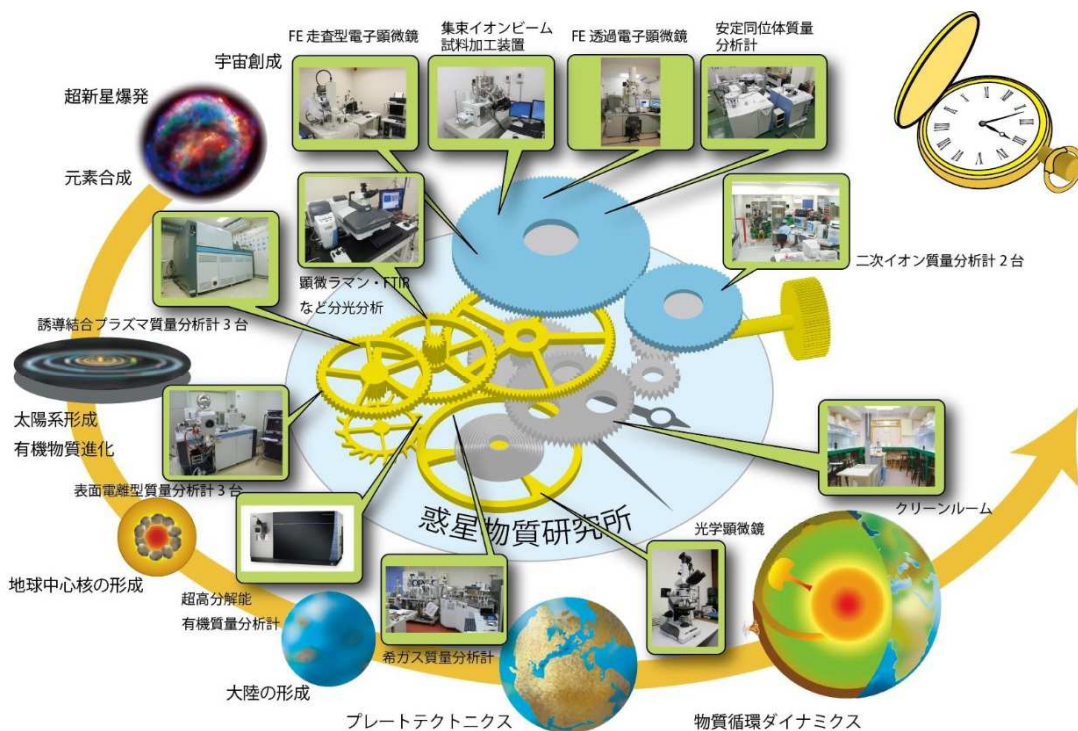


<https://www.misasa.okayama-u.ac.jp/jp/>

### 3. 岡山大学の宇宙における主な取組例①

惑星物質研究所でないとできない分析、研究がある

#### 地球惑星物質総合解析システム(CASETM)



#### 宇宙から原子まで ~シームレススケール解析~



地球惑星物質総合解析システムが切り拓く物質科学の未来

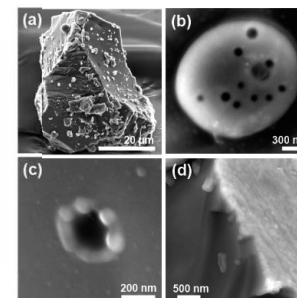
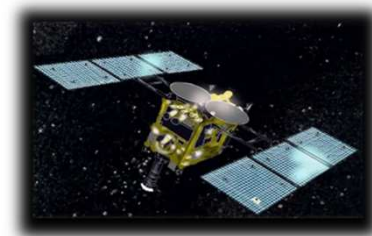
<https://www.atomprobe.com/-/media/ametekatomprobe/files/key-apt-links/pdf/comeca-technical-seminar-2020-kobayashi.pdf?dmc=1&la=en&revision=de36640b-75f9-4cd2-9bad-34f78b527dce&hash=A9A225F621A30839BB78818F42B8D73C>



### 3. 岡山大学の宇宙における主な取組例①

#### ●探査機「はやぶさ」「はやぶさ2」が持ち帰った試料分析

- ・「はやぶさ」回収微粒子に残された小惑星の表層環境を分析  
[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id1483.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id1483.html)



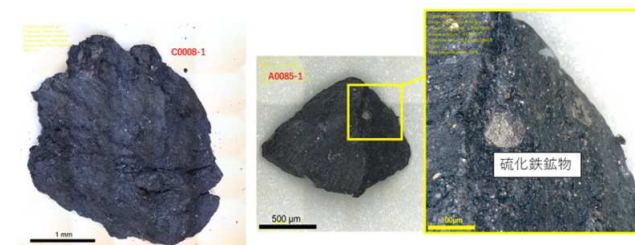
- ・小惑星リュウグウがかつて彗星であった可能性を理論的に指摘～小惑星探査機「はやぶさ2」が採取した小惑星物質の起源解明へ～

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id940.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id940.html)



- ・小惑星リュウグウに記録されたアミノ酸生成の痕跡  
～初期太陽系における水-有機物反応のスナップショット～

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id1073.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id1073.html)



- ・小惑星リュウグウの起源と進化－地球化学総合解析による太陽系物質進化の描像

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release\\_id971.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/release/release_id971.html)



#### <参考動画>

岡山大学惑星物質研究所「すぐにわかる小惑星リュウグウの起源と進化」(知の拠点【すぐわかアカデミア。】)

[https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000833.000072793.html](https://prt看mes.jp/main/html/rd/p/000000833.000072793.html)



## 4. 岡山大学の宇宙における主な取組例②

### 岡山大学高等先鋭研究院 資源植物科学研究所 (倉敷市)

研究施設と1.5haの実験圃場を保有する、植物科学に特化した教育研究を実施する研究機関。植物遺伝資源を活用する研究や植物ストレス応答に関する基礎科学的研究を推進や、2010年度から**全国共同利用・共同研究拠点として認定**を受け、植物科学研究者コミュニティを支援する「**植物遺伝資源・ストレス科学研究拠点**」として活動を推進。2022年度までに600件を超える共同研究を受け入れ、植物科学の推進に貢献している。



岡山大学高等先鋭研究院

OKAYAMA UNIVERSITY



<https://www.rib.okayama-u.ac.jp/>



## 4. 岡山大学の宇宙における主な取組例②

### ○宇宙空間における植物の研究

- ・宇宙で生育する植物のストレス応答・防御遺伝子の発現解析
- ・宇宙船外に曝露した種子生存能力の解析
- ・宇宙空間での紫外線で発現する遺伝子の機能解析 など



将来、宇宙空間や月面などにおける作物の栽培などに役立つ基礎的知見を数多く輩出

「地球上」の食糧安全保障を支える科学技術・イノベーションのみならず、「宇宙(月)空間」における人類の持続可能な活動を支える「宇宙農業」を支える知見などを蓄積。

食は人が生きるうえで必須であり、また生活(持続性)においても同様であるため、「宇宙×作物」という視点を重点的に研究開発を進める。

## 5. 岡山大学の宇宙戦略(概要)

岡山大学高等先鋭研究院を組成する「惑星物質研究所」と「資源植物科学研究所」をメインに宇宙に関わる *Planetary Health*、*Human Health*、*Community Health* を核とした研究を推進。

また高等先鋭研究院である「異分野基礎科学研究所」と「文明動態学研究所」も多様な基礎科学と人文社会科学の視点からコラボレーションし、人類の宇宙空間での持続的な活動知見を支える。

例)



×



惑星物質研究所で解析した小惑星などの組成から、人工的に土壌を作り出し、資源植物科学研究所において、人工土壌に作物を植えるとどうなるのかなど、**人類が宇宙で持続的な生活圏を形成する際の重要な研究・技術開発などを推進**することができる。



×



×



異分野基礎科学研究所での光合成研究や革新的材料研究などを宇宙に応用することで、エネルギー生産や宇宙開発の素材・材料を提供、さらに基礎科学的な知見を宇宙に応用することで、**従来にはない「新結合」を生み出す**ことなどができる。

## 5. 岡山大学の宇宙戦略(概要)

例)



×



文明動態学研究所の持つ人文社会科学的な視点から宇宙開発や技術、人類の歩みなどに関して、知見を提供することで、技術開発を社会実装する際、特に「**宇宙空間での人類の活動への実装**」という新しい領域をいち早く開拓・整備できるように貢献できる。

また、将来的に「**地球での人類史**」と「**宇宙(月)での人類史**」という、**人類の歩みが大きく分かれる起点**ともなる時代をいま迎えており、人文社会科学のアプローチは重要な点と言える。

総合知を活用した新結合で  
これまでになかった研究開発を！

宇宙というワクワクを  
もっと近くに、多くの人達に！

これらの可能性から本年度、**高等先鋭研究院を組成する4研究所に対して「岡山大学の宇宙戦略」の取り組みの具体化や基礎調査を推進するための活動費を配分**することを11月27日に決定。

今後の「岡山大学の宇宙戦略」を明確にするとともに、学内連携や他の大学・研究機関とのさらなる連携のみならず、**宇宙開発・技術におけるスタートアップ・ベンチャーの有望なシーズ**などとも協働し、わが国の宇宙基本計画の推進、そして基礎研究や産業の活性化、人材の育成などに積極的に関与していく。



岡山大学高等先鋭研究院

OKAYAMA UNIVERSITY

<参考>

## 岡山大学高等先鋭研究院のシステム



## 参考：岡山大学高等先鋭研究院のシステム（1/5）

### 〇はじめに

2023年9月11日、岡山大学経営戦略会議において「**岡山大学高等先鋭研究院**」の設置を決定。  
岡山大学高等先鋭研究院は、研究IRなどに基づき、まず本学の4研究所

- ・資源植物科学研究所(倉敷市)
- ・惑星物質研究所(鳥取県三朝町)
- ・異分野基礎科学研究所(岡山大学津島キャンパス)
- ・文明動態学研究所(岡山大学津島キャンパス)

を集約し、岡山大学の強みある研究領域の更なる強化と、これに伴うイノベーション創出の更なる推進を目指し、研究力の卓越性と厚みを育成するための**システムとして設置**。



異分野基礎科学研究所と文明動態学研究所への認定式記念撮影(左から佐藤法仁副理事・副学長、那須保友学長、沈建仁所長、松本直子所長、松尾泰樹内閣府事務局長、白井俊内閣府参事官)



惑星物質研究所への認定式記念撮影(左から白井俊内閣府参事官、佐藤法仁副理事・副学長、芳野極所長、松尾泰樹内閣府事務局長)



資源植物科学研究所への認定式記念撮影(左から山本敏央副所長、佐藤法仁副理事・副学長、那須保友学長、平山隆志所長、松尾泰樹内閣府事務局長、白井俊内閣府参事官)

岡山大学の4研究所を「高等先鋭研究院」に認定 ～世界と伍す研究・イノベーションの卓越と厚みを育成するシステムを始動～

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id12565.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12565.html)



## 参考：岡山大学高等先鋭研究院のシステム(2/5)

### ○なぜ岡山大学高等先鋭研究院を創設し、始動させたのか

①学内研究者が自身の研究チームを育成する手段と、それに伴う大学の支援メニューが限定的であったなどからわかりにくい点もあった

→まず第2レイヤーに進み、次に第1レイヤーに進むという、誰もがわかる「研究の育成の手順」を明確にした

②時に人などの影響で研究マネジメントや支援が左右される点もあった

→大学として資源を集中投下する「岡山大学最重点研究分野」を明確にするとともに、レイヤーに上がるための「基準」を研究IRで明確にし、そのためのマネジメント・支援も「メニュー化」へ

③長期的時間において、個人研究の域を脱せず、「個人」で物事を進める点もあった

→「岡山大学研究ポリシー」を改正し、「個人研究はいつまでも支援せず\*、チーム(研究群)を対象にする」ことを明確し、チームを育成することで、「研究の層の強化」を図った

などなど

「研究の方向性の明確化」、「効率的な研究マネジメント・支援」、「研究IRの強化」、「1研究者の離脱による研究力低下防止」、「研究層の強化」、「秀逸な若手研究者の台頭」などをパッケージ化したのが【岡山大学高等先鋭研究院のシステム】である

\*科研費の全学的支援メニュー等は継続実施

## 参考：岡山大学高等先鋭研究院のシステム(3/5)

○拠点組織の「箱」ではなく、卓越、イノベーション創出、流動、育成を兼ね揃えた「システム」として運用開始

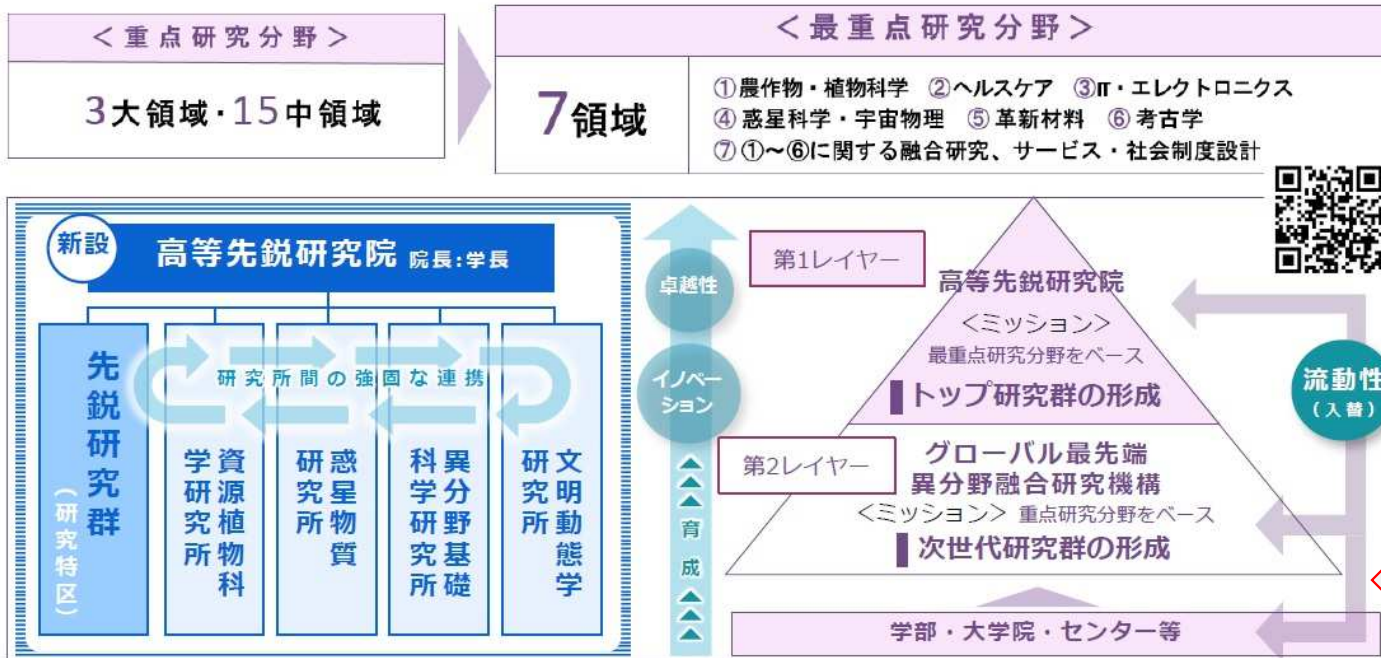
高等先鋭研究院を「第1レイヤー」、本学の育成専門機構であるグローバル最先端異分野融合研究機構(G研究機構)を「第2レイヤー」とし、それぞれにミッションを明確に。さらに高度研究系マネジメント人材であるURAの優先的配置や自己資金をも注力することで、システム運用を強化へ。

我が国初の試み



岡山大学高等先鋭研究院

OKAYAMA UNIVERSITY



緊張感を持ってシステムを運用

研究IRにより岡山大学の4研究所を高等先鋭研究院の初代枠組みに入れているが、基準を満たさなければ研究所を解散・再編させる覚悟を持って運用する

自己資金 約5.6億円/年を投入

既存の研究と地域共創の部門を統合し「研究・共創イノベーション機構」を設置 総司令塔機能を強化

研究大学の舵取りを担う高度研究系専門人材である岡山大学URA [https://www.okayama-u.ac.jp/up\\_load\\_files/press\\_r5/press20230831-1-1.pdf](https://www.okayama-u.ac.jp/up_load_files/press_r5/press20230831-1-1.pdf)



## 参考：岡山大学高等先鋭研究院のシステム（4/5）

岡山大学高等先鋭研究院の院長は那須保友学長が、副院長はG研究機構長\*を務める佐藤法仁副理事・副学長・URAと4研究所の平山隆志所長、芳野極所長、沈建仁所長、松本直子所長の5名が務める。



岡山大学高等先鋭研究院

OKAYAMA UNIVERSITY



那須保友 院長  
(学長・法人の長)



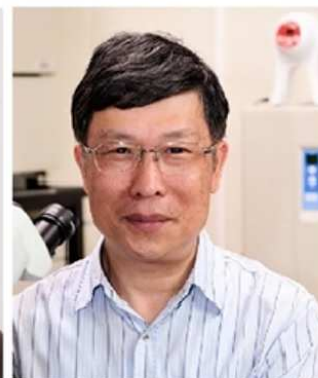
佐藤法仁 副院長  
(G研究機構長\*)



平山隆志 副院長  
(資源植物科学研究所長)



芳野極 副院長  
(惑星物質研究所長)



沈建仁 副院長  
(異分野基礎科学研究所長)



松本直子 副院長  
(文明動態学研究所長)

### \* 岡山大学グローバル最先端異分野融合研究機構(G研究機構)

文部科学省「研究大学強化促進事業」において創設した研究群を育成するための専門機構。10年間の研究大学強化促進事業(昨年度終了)における育成ノウハウを次に活かすため、高等先鋭研究院との密な連携によって岡山大学における研究・イノベーション力の「厚み」を担っていきます。なお、G研究機構長は高等先鋭研究院の副院長を兼任し、マネジメントの俯瞰も担保しています。



**G-RESEARCH**  
ORGANIZATION FOR GLOBAL ADVANCED  
INTERDISCIPLINARY SCIENCES  
OKAYAMA UNIV.



## 参考：岡山大学高等先鋭研究院のシステム(5/5)

### ○補足説明

#### ・岡山大学最重点研究分野

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id12288.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12288.html)



2023年7月31日の役員会において、研究IRなどを基にして、7つの分野を制定した(7月19日教育研究評議会承認)。

- ① 農作物・植物科学分野
- ② ヘルスケア分野
- ③ IT・エレクトロニクス分野
- ④ 惑星科学・宇宙物理分野
- ⑤ 革新材料分野
- ⑥ 考古学分野
- ⑦ ①～⑥に関係する融合研究、サービス・社会制度設計

#### ・岡山大学研究ポリシーの改正

2023年10月30日の役員会において、「岡山大学研究ポリシー」を改正した(10月18日教育研究評議会承認)。

主な改正ポイントは、

[https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news\\_id12553.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/news/news_id12553.html)



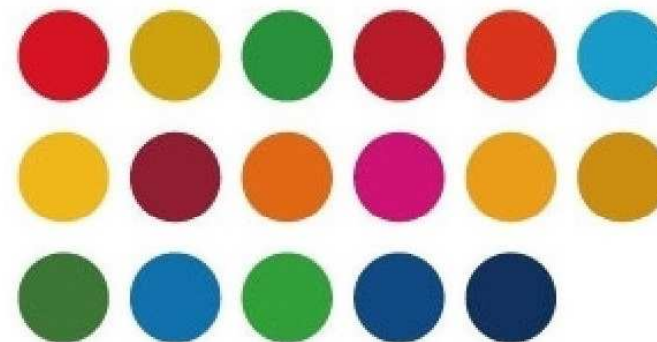
- ①岡山大学長期ビジョン2050の実現に根ざしている点
- ②産業化や社会実装等のイノベーション創出に関わる点を含む点
- ③生成系AIや研究インテグリティなどを明記した点
- ④機器共用促進を含む設備整備等の研究環境の質向上と研究に従事する者のパートナーとしての技術職員の人材育成強化の点
- ⑤岡山大学最重点研究分野の研究推進を行う点
- ⑥岡山大学高等先鋭研究院のシステムを強力に推進する点
- ⑦研究に従事する者「個人」ではなく、集団としての「群」を対象に研究推進を行う点
- ⑧大学院博士課程(後期課程)に在籍する大学院生を「研究者」と位置づける点
- ⑨高い研究能力を有して研究活動に従事する者に対しては、研究活動時間や活動費等のインセンティブを与える点
- ⑩リサーチ・アドミニストレーター(URA)は、岡山大学執行部の研究ブレーン組織を担うマネジメント人材とともに、法人経営を担う人材として大学内だけではなく社会とともに育成を図る点



国立大学法人岡山大学  
第15代学長(第5代法人の長)  
那須 保友

研究大学 岡山大学が拓く今と未来

OKAYAMA  
UNIVERSITY  
×  
SDGs



知識によって社会を変革するナレッジワーカーによる研究・イノベーションの叡智で地球と生態系の健康（Planetary Health）、Well-being・人の健康（Human Health）及び安心安全に暮らせる地域の健康（Community Health）の実現と、そのための社会変革へ

【本件お問い合わせ先】  
岡山大学研究力・イノベーション創出強化実現会議  
（担当窓口：研究協力部 研究協力課）  
TEL: 086-251-7115  
E-mail: [innovation@adm.okayama-u.ac.jp](mailto:innovation@adm.okayama-u.ac.jp)



岡山大学  
OKAYAMA UNIVERSITY

世界への扉を開く